



三重県リニア基本戦略(仮称) 中間案

令和5年(2023年)12月
三重県 地域連携・交通部

目次

1 戦略策定の趣旨	1
(1)はじめに	
(2)戦略策定の趣旨	
2 特に留意すべき社会情勢の変化	3
(1)人口減少・高齢化の進展	
(2)暮らし方・働き方の変化	
(3)デジタル技術の進展	
(4)巨大災害リスクの切迫	
3 リニア開業がもたらす効果	4
(1)リニアがもたらすインパクト	
(2)懸念される課題	
4 めざす三重の姿	6
(1)新たな玄関口から始まるこれからの時代に選ばれる三重	
(2)選ばれる三重となるために	
5 めざす三重の姿に向けての3つの基本戦略	8
戦略1 リニア時代の新たなライフスタイルの創出	
戦略2 新たな玄関口からはじまる観光交流の拡大	
戦略3 新たな玄関口から生まれるビジネス交流の拡大	
6 基本戦略を支える基盤づくり	16
(1)リニア三重県駅を核とした交通ネットワークの形成	
(2)リニア三重県駅を核としたまちづくり	
7 これからの取組	19

(1) はじめに

- リニア中央新幹線(以下「リニア」という。)は、東京・名古屋・大阪間の時間距離を大幅に短縮し、三大都市圏を結ぶ「日本中央回廊」を形成し、巨大な経済圏を生みだします。
- また、東京・大阪間の東海道新幹線との二重系化による災害に強い国土を形成するなど、わが国の新たな国土の大動脈として経済社会を支え、日本経済の再生に向けた動きを加速させ、さらに日本を大きく成長させる原動力となる国家的プロジェクトです。
- 2037年に東京・大阪間の全線開業が予定され、本県にはその中間駅として亀山市内にリニア三重県駅が設置される予定です。



出典：第三次国土形成計画(参考資料)(R5.7)を一部加工



出典：リニア中央新幹線建設促進期成同盟会パンフレット(R4.10)を一部加工

(2) 戦略策定の趣旨

- リニアの開業は、空港も新幹線駅もない本県にとって、初めての高速鉄道駅の設置となり、リニア三重県駅を中心に新しい三重の未来デザインを描く、またとない機会です。
- リニア三重県駅は、多くの人、モノ、情報が行き交う新たな玄関口となり、人口減少対策などに大きな役割を果たすことが期待でき、本県が飛躍的に発展するチャンスとなります。
- リニア開業効果を県全体へ波及・発展させていく取組の方向性を示し、リニアとともに本県が歩む将来のイメージを県民の皆さまと共有することを目的に「三重県リニア基本戦略(仮称)」を策定します。



(1) 人口減少・高齢化の進展

- ピーク時に約187万人だった三重県の人口は、リニアが全線開業する予定の令和19(2037)年の3年後、令和22(2040)年には約150万人程度になる見込みです。
- 今後少子化はますます進むものと推定され、令和2(2020)年に約103万人であった生産年齢人口は、令和22(2040)年には約79万人と、約4分の3にまで減少する見込みであり、その結果、高齢化率は令和22(2040)年には36.9%となる見込みです。



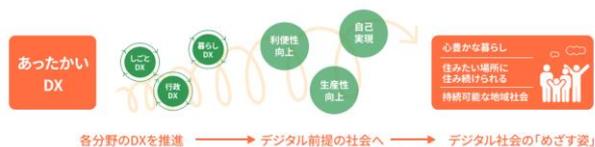
(2) 暮らし方・働き方の変化

- ICT技術の進展とも相まって、テレワークの導入等の働き方改革により進展しつつあり、就労を含む生活の主な拠点を地方に移し、都市との関わりも残すという、新たな二地域居住が可能となります。こうした新しい生活スタイルは、地方での豊かな自然・生活環境、自己実現、ふるさと回帰等への志向に応えるとともに、地域活性化の面でも期待されています。
- また、人口減少・高齢化により地域づくりの担い手不足という課題に直面している状況であり、移住を含めた「定住人口」や観光による「交流人口」に加え、特定の地域に継続的に多様な形で関わる「関係人口」と呼ばれる地域外の人材が、地域づくりの担い手となることも期待されています。

(3) デジタル技術の進展

- 高度なネットワークなど、情報通信基盤が整備され、デジタルの力を全面的に活用することで、地域の個性と豊かさを生かしつつ、都市部と変わらない利便性を兼ね備えた地域が県内でも形成されます。
- 三重県では、「デジタルが社会に浸透することによって、誰もが、直接的、間接的にデジタルの恩恵を受けることができる社会」をデジタル社会ととらえ、その形成を推進し、デジタル社会の形成により、「心豊かな暮らし」と「持続可能な地域社会」が実現されている三重県をめざすこととしています。

みえのデジタル社会の形成



出典：みえのデジタル社会の形成に向けた戦略推進計画(R4.12)

(4) 巨大災害リスクの切迫

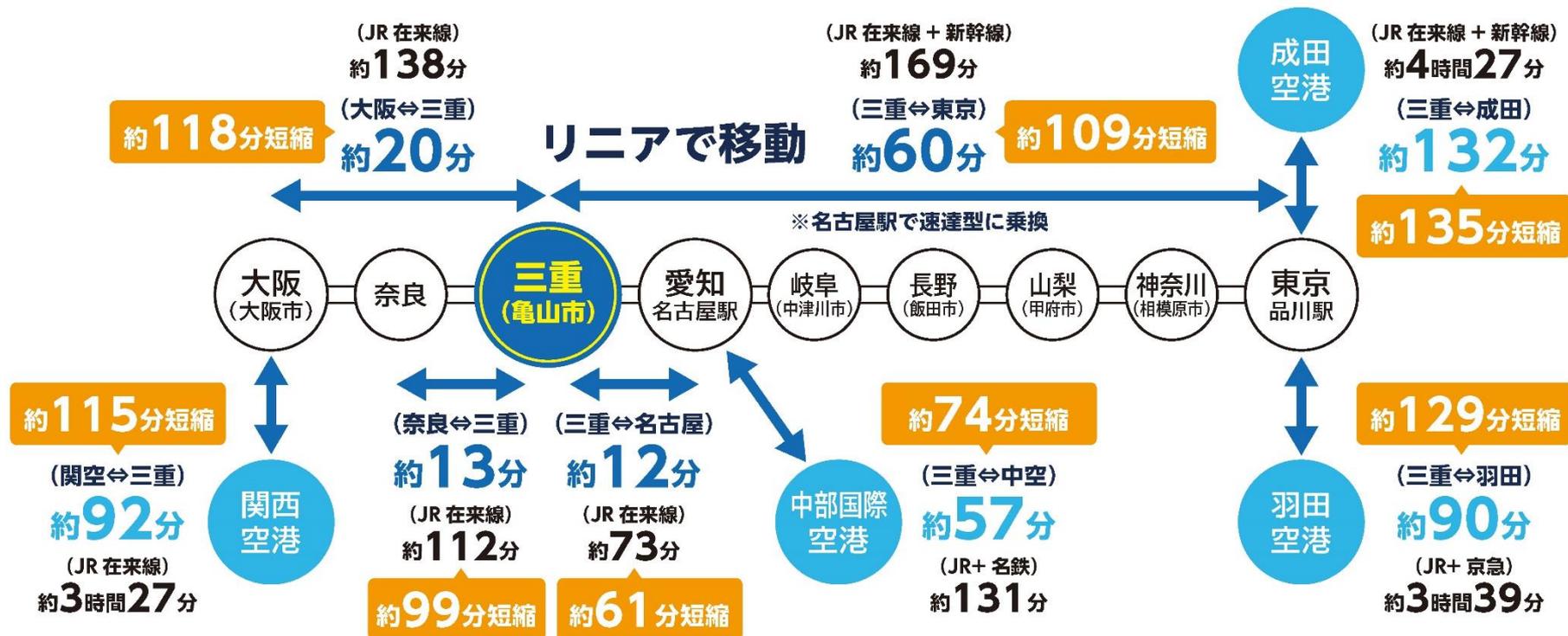
- 南海トラフ地震の発生確率は、今後30年間で約70～80%となっており、地震等により甚大な被害の発生が予想される三重県としては、災害発生後、迅速かつ的確に応急対策活動を実施する必要があります。

南海トラフ巨大地震の想定震度の最大値の分布図



(1)リニアがもたらすインパクト

時速500kmのスピードで、東京と約60分、大阪と約20分で結ばれ、国際空港とのアクセスも格段に向上します。



- 東京(品川駅)まで 約 60分 【約109分短縮】
- 大阪(新大阪駅)まで 約 20分 【約118分短縮】
- 成田空港まで 約132分 【約135分短縮】
- 関西空港まで 約 92分 【約115分短縮】

※リニア移動による各所要時間は三重県が推計したもの

※「三重」はJR亀山駅、「奈良」はJR奈良駅、「大阪」はJR新大阪駅を想定

※リニア駅での乗換は約8分で設定

※「三重～リニア品川駅」までリニア各駅停車型の場合は約82～87分

※JR在来線・新幹線はJR亀山駅を令和5年10月平日午前7時に出発した場合

暮らし “いつでも”“どこでも”が可能に！

都市・地方間の移動利便性が向上し、新たなビジネススタイル・生活スタイルが誕生します。

産業・経済 首都圏・中部圏・近畿圏が一体化！

3つの大都市(東京・名古屋・大阪)が約1時間で結ばれ、大きな経済効果もたらされます。

観光・交流 日本各地がより身近に！

旅行者、訪問回数や周遊場所の増加が見込まれ、人や情報の交流が活発になり、新たなイノベーションが生まれます。

災害リスク 災害リスク分散で安全・安心！

「リニア」と「既存の新幹線・高速道路ネットワーク」の多重化・代替性の強化で、災害リスクが分散されます。

(2) 懸念される課題

- 大都市圏への企業や労働力、居住者などの流出といったストロー現象が懸念されます。そのため、リニア開業に先んじて、リニア駅を中心とした未来デザインを描き、県をまたぐ広域から人やモノを呼び込む取組を進める必要があります。
- 交通が便利になると日帰り旅行者が増え、宿泊客が減ることが懸念されます。そのため、三重県を拠点として県内外の周遊や長期滞在をする高付加価値旅行者や外国人旅行者を増やす取組を進める必要があります。
- 巨大な構造物となるリニア駅本体やリニア本線により、沿線地域や景観等への影響が懸念されます。そのため、県内ルートや駅位置の確定後に地域の方々の声を聞きながら、JR東海や関係市町と連携して対応を検討する必要があります。
- 建設発生土の処理など工事に伴う課題については、これまでの事例をふまえて課題の未然防止につながるよう、事業主体であるJR東海に対し必要な対策を求めるとともに、解決に向けて連携して取り組む必要があります。

(1) 新たな玄関口から始まるこれからの時代には選ばれる三重

人口減少が進む中、リニア開業がもたらす効果を最大限に活用することが極めて重要となります。リニア開業によって実現する大都市圏との広域ネットワークや、リニア三重県駅を中心とした県内の地域を結ぶネットワークを構築することで、新たなリニア広域生活圏※を形成し、次の3つの姿を実現する、これからの時代には選ばれる三重をめざします。

- 圧倒的な移動時間の短縮と先進的な技術を組み合わせることにより、三重の豊かさと大都市圏の多様さを手に入れる**リニア時代の新たなライフスタイルを創出**
- 実用化が進む自動運転や空飛ぶクルマなどの次世代交通に対応したリニア三重県駅と地域交通拠点※とが効率的に結ばれ、**県内外の観光・ビジネス交流が飛躍的に発展**
- 新たな玄関口の魅力と、自然の恵みや歴史・文化、産業など南北に連なる県内各地の豊かな魅力とが繋がることで、**三重にしかない暮らしや、働き方、来訪スタイルを実現**

※新たなリニア広域生活圏のイメージ

リニア駅を中心に県内の都市やリニア沿線の都市と一体的な圏域を形成し、都市部の企業や大学への通勤・通学、高度な医療機能が利用可能となり、特別な買い物・趣味・娯楽やリニア駅からつながる観光地などを気軽に楽しむことができる。

※地域交通拠点のイメージ…県内各地域の玄関口となる交通結節点で、地域の施設を結ぶ様々な交通手段の接続・乗継拠点

(2) 選ばれる三重となるために

これからの時代に選ばれる三重となるために、次の5つの戦略的な視点をふまえ、めざす三重の姿の実現に向けて取り組みます。

■ リニア三重県駅周辺エリアの計画的な機能配置と戦略的な地域交通拠点の機能強化

リニア駅周辺に交通結節機能だけでなく、交流を拡大させるための機能の配置を検討するとともに、リニア開業効果を県内全域に効果的・効率的に波及・発展させる地域交通拠点の機能を強化します。

■ リニア三重県駅と地域交通拠点を結ぶ次世代の交通ネットワークの形成

リニア駅からの乗り換えの効率を追及し、出発地から目的地まで円滑に移動できる環境をめざします。

■ 美し国三重にしかない強みを生かした一体的なブランディング

海・山の豊かな自然や文化、独自資源等を歴史的なストーリーを含めて一体的にブランディングし発信します。

■ デジタルをはじめとする先端技術サービスの早期実装

近未来の技術の社会実験・実装に挑戦し、新たなライフスタイルの先進モデルの実現をめざします。

■ 訪れたいくなるリニア三重県駅の独自性や魅力にあふれた駅まちデザイン

新たな三重の玄関口を象徴とする空間を創出し、何度も訪れたいくなるような駅および周辺をデザインします。

5 めざす三重の姿に向けての3つの基本戦略

戦略1 リニア時代の新たなライフスタイルの創出

魅力ある三重での暮らしの選択肢を広げ、多様なニーズに応える新しいライフスタイルを発信します！

取組1 都市部の企業や大学への通勤・通学が選択可能な三重に

取組2 地域と多様な形で関わる人が増える三重に

取組3 県外からの移住希望者に選ばれるとともに定住が促進される三重に

【期待される効果】 新たな暮らし方や働き方の実現、関係人口・交流人口の増加、移住の促進

戦略2 新たな玄関口からはじまる観光交流の拡大

リニア三重県駅に交通拠点機能を配置し、みえへの旅立ちをサポートします！

取組1 もっと身近に便利に旅を楽しめる三重に

取組2 リニア駅から魅力ある滞在型・周遊観光の旅を提供する美し国三重に

【期待される効果】 観光地までの利便性・快適性・周遊性の向上、インバウンド・長期滞在の観光客の増加

戦略3 新たな玄関口から生まれるビジネス交流の拡大

移動時間の短縮とデジタル技術の融合により、クリエイティブな活動が活発になる環境をつくります！

取組1 クリエイティブな人材や企業をひきつける交流空間を創出する三重に

取組2 大都市圏の多様さと地域をつなげ新たな産業・雇用を創出する三重に

取組3 リニアを活用して防災力を強化する三重に

【期待される効果】 イノベーションの促進、新たな雇用の創出、若者・女性の定着、人口・企業中枢機能の分散

5 めざす三重の姿に向けての3つの基本戦略

戦略1 リニア時代の新たなライフスタイルの創出

魅力ある三重での暮らしの選択肢を広げ、多様なニーズに応える新しいライフスタイルを発信します！

取組1 都市部の企業や大学への通勤・通学が選択可能な三重に

■ 交通ネットワーク強化とデジタル技術を活用した新たな暮らし方、働き方※モデルの創出

- | | |
|------------|--|
| 検討
テーマ※ | <ul style="list-style-type: none">● リニア発着に合わせた定時制のある交通ネットワークの構築● 快適なリモートワークが可能なサードプレイス環境の提供 等 |
|------------|--|

※新たな暮らし方、働き方のイメージ

三重県の豊かな自然・文化の中で暮らしながら、都市の多様な学び・仕事・文化・娯楽を手に入れ、リモートワークと高速移動による通勤・通学を組み合わせた柔軟な暮らし方や働き方

※検討テーマ…基本戦略の実現に向けて具体的な施策や事業をまとめる「みえリニア戦略プラン（仮称）」策定時に検討する項目の例示

取組2 地域と多様な形で関わる人が増える三重に

■ 賑わいの創出による関係人口の拡大・二地域居住の推進

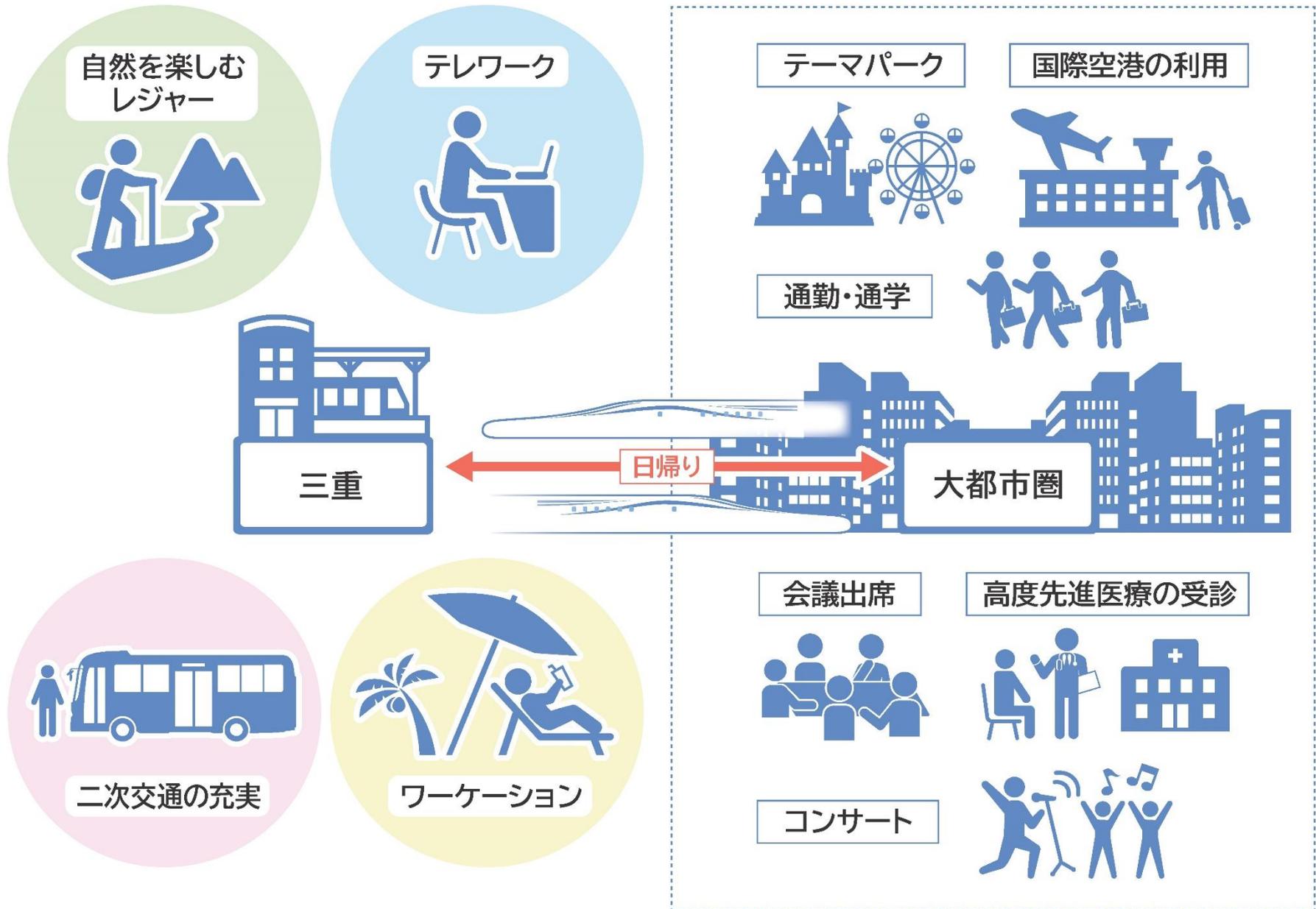
- | | |
|-----------|--|
| 検討
テーマ | <ul style="list-style-type: none">● リニア三重県駅に新たな賑わいの場としての機能を創出● 三重ならではの体験の提供など、にぎわい創出の仕掛けづくり・運営(エリアマネジメント)● 関わりの場のコーディネート(情報発信・マッチングなど)● 地域での一時滞在を可能とする受入体制整備(簡易宿泊施設、空き家の活用促進など) 等 |
|-----------|--|

取組3 県外からの移住希望者に選ばれるとともに定住が促進される三重に

■ 定住・移住・滞在型居住を促す魅力的な生活環境の提供

- | | |
|-----------|---|
| 検討
テーマ | <ul style="list-style-type: none">● リニアの高速移動の利便性と豊かな自然・文化を生かした移住や定住促進(転職なき移住促進)● 若年層・子育て世代、女性等の定住を促す支援(大都市よりゆとりのある居住、子育て環境の提供)● リニアとデジタルの推進による都市部と変わらない医療・教育環境の提供 等 |
|-----------|---|

リニア時代の新たなライフスタイルのイメージ



戦略2 新たな玄関口からはじまる観光交流の拡大

リニア三重県駅に交通拠点機能を配置し、みえへの旅立ちをサポートします！

取組1 もっと身近に便利に旅を楽しめる三重に

■ 県内全域をカバーするゲートウェイ機能・次世代サービスの提供

検討
テーマ

- 県内全域を対象とした総合案内機能(AIコンシェルジュ等)
- 広域MaaSの活用による情報提供やワンストップ予約・決済等の提供
- 駅の独自性・魅力向上(地域産品を扱う物販施設、地域の食を体験できる施設など) 等

■ 地域交通拠点から周辺観光地までの交通アクセス向上

検討
テーマ

- 地域交通拠点を中心とした観光地までの交通ネットワーク(カーシェア・レンタカーデポ、自動運転バスなど)
- 観光地内のサイズ感に応じたシェアリング型移動サービス(自転車シェア、電動キックボードなど) 等

取組2 リニア駅から魅力ある滞在型・周遊観光の旅を提供する美し国三重に

■ 三重の豊富な観光資源を新たに結ぶ魅力の広域観光ルートの形成

検討
テーマ

- 歴史・文化等の共通の資源を結び付けた、ゾーンとしてのプロモーションの展開
- 周遊観光を可能にする旅行者のニーズに合わせた二次交通の充実
- インバウンド向けのプロモーション、多言語対応施設の充実
- 三重でしか味わえない上質な体験コンテンツの充実
- 食を生かしたツーリズム、エコツーリズム、アドベンチャーツーリズム、サイクルツーリズム 等

■ 三重の魅力を生かしたワーケーションやブレジャーのモデルを提供

検討
テーマ

- ワケーションが可能な空間や通信環境の整備
- ブレジャーを促進するための取組やブレジャー用観光メニューの充実 等

新たな玄関口からはじまる観光交流の拡大のイメージ



山麓エリア・ワーケーション・イメージ



海辺エリア・ワーケーション・イメージ



戦略3 新たな玄関口から生まれるビジネス交流の拡大

移動時間の短縮とデジタル技術の融合により、クリエイティブな活動が活発になる環境をつくります！

取組1 クリエイティブな人材や企業をひきつける交流空間を創出する三重に

■ 大都市圏や海外との産業・人材連携やイノベーションネットワークの展開

検討
テーマ

- 地域産業の情報発信やビジネス交流の拠点となる機能の整備
- 高速通信ネットワークなどのデジタルインフラの整備
- サテライトオフィス、シェアオフィス、ベンチャーオフィス環境の提供 等

取組2 大都市圏の多様さと地域をつなげ新たな産業・雇用を創出する三重に

■ 新たな産業の創出、関連産業の集積や研究開発機能の誘致

検討
テーマ

- スタートアップや新規事業の創出・業態転換等を支援するインキュベーション施設
- 高付加価値型産業や成長分野となる可能性がある研究所・産業の誘致・促進
- 革新的・先進的技術やサービスの社会実装実験場所の提供
- 公設試験研究機関のサテライト施設の誘致 等

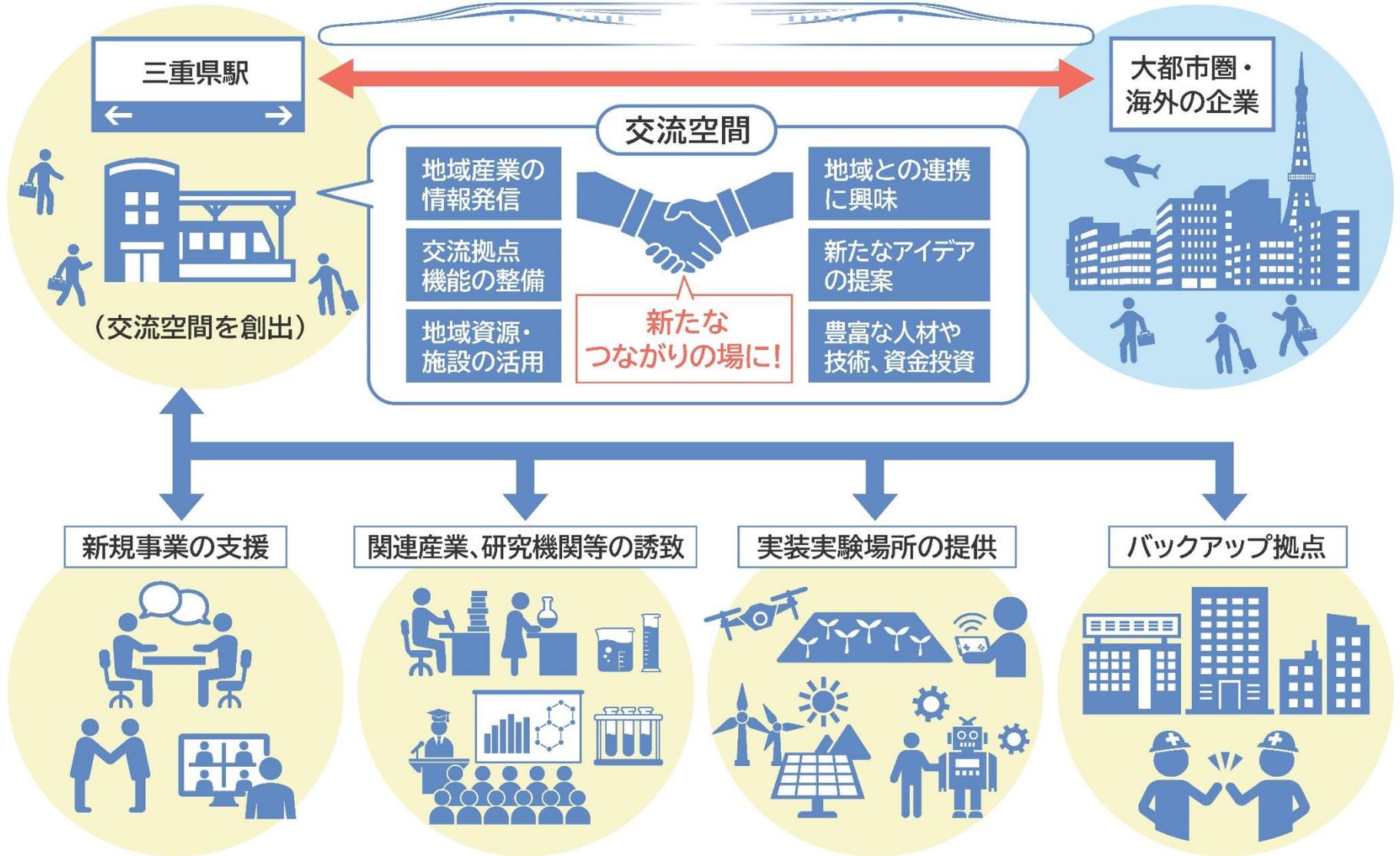
取組3 リニアを活用して防災力を強化する三重に

■ 災害に備えたバックアップ機能の強化、リスクの分散

検討
テーマ

- 防災を意識した行政・大学・企業の機能移転、バックアップ拠点の誘致
- BCP支援体制の強化(有事の際に機能する一体的な基盤インフラ等)
- エネルギーマネジメントシステム(EMS)構築
- 防災拠点機能および交通・輸送機能の補完・強化 等

新たな玄関口から生まれるビジネス交流拡大のイメージ



(1)リニア三重県駅を核とした交通ネットワークの形成

県内外への玄関口としての機能を高め、リニアがもつ速達性の効果を県内全域に広がります！

取組1 新たな玄関口としての駅前交通ターミナル整備

検討
テーマ

- 交通拠点整備(バス、タクシー・ライドシェア、レンタカー・カーシェア、次世代モビリティ、空飛ぶクルマなど)
- 駅前広場・周辺の整備(バスタ、にぎわい空間、ウォークアブルな空間、公共交通共存空間など)
- 駐車場整備(自家用車、バス等各種モビリティ待機所) 等

取組2 新たな玄関口とつながる道路ネットワークの整備

検討
テーマ

- リニア三重県駅と高速道路を直結する道路整備
- リニア三重県駅と地域交通拠点を連結する道路ネットワークの強化
- 次世代を見据えた交通基盤の整備 等

取組3 鉄道ネットワークの強化・充実

検討
テーマ

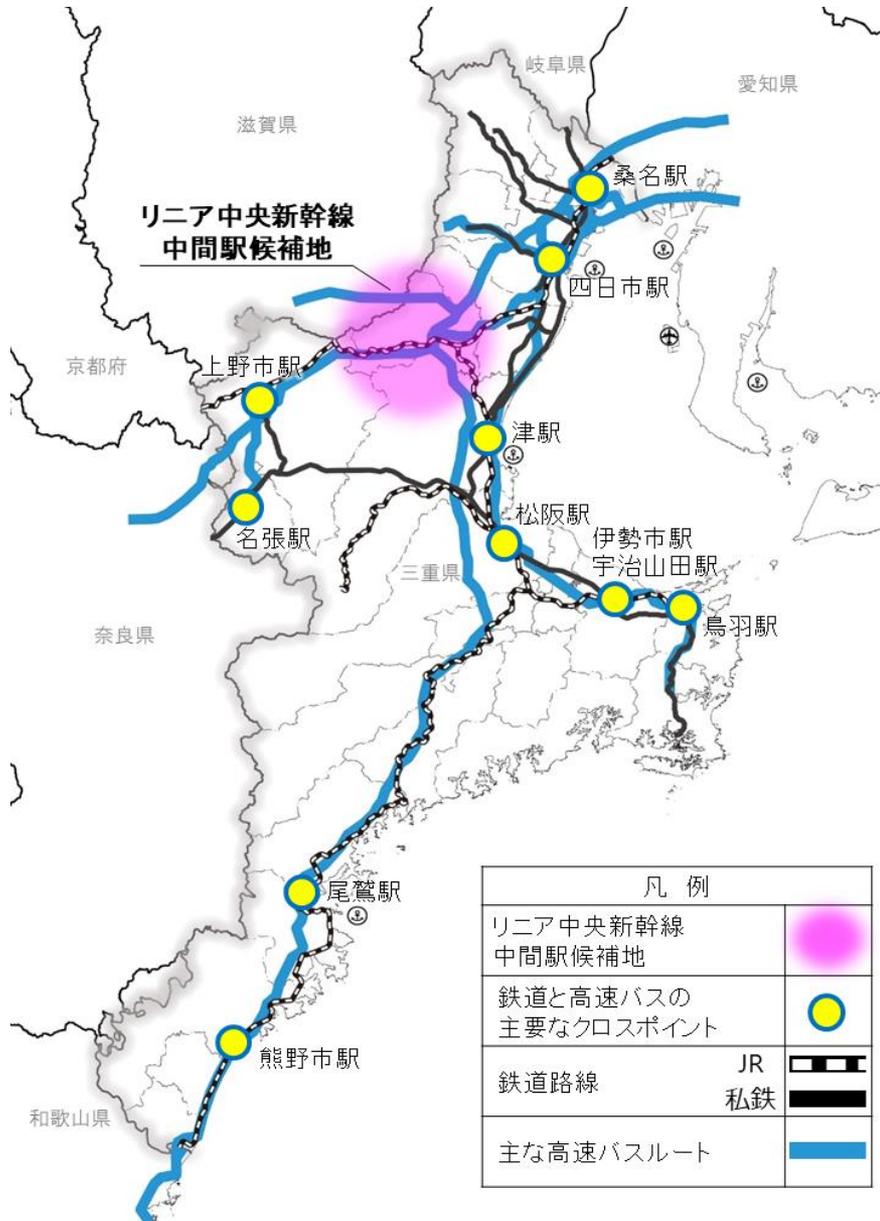
- 既設鉄道網とのアクセス強化(新駅の設置もしくは新たな交通手段の検討)
- 既設鉄道網の利便性・快適性の向上(乗り換え利便性、高速化、豪華列車・直通列車の運行) 等

取組4 新たな二次交通ネットワークの形成

検討
テーマ

- 鉄道と高速バスのクロスポイントを中心とした地域の交通拠点整備
- リニア三重県駅と地域交通拠点を結ぶ速達性のある移動手段
- 移動特性・ニーズに合わせた多様な地域周遊交通ネットワーク
- 駅周辺の地区内交通(定時・低速・高頻度の自動運転車両など) 等

リニア三重県駅を核とした交通ネットワークイメージ



出典: 三重県新広域道路交通計画 (R33)

駅前交通ターミナルのイメージ



出典: 国土交通省「交通拠点の機能強化に関する計画ガイドライン (R34)」



© SkyDrive

(2)リニア三重県駅を核としたまちづくり

何度も訪れたいくなる独自性のある駅や魅力あふれる駅まち空間をデザインします！

- リニア三重県駅周辺は、県内外からの交通機関利用者や地域住民を対象とする飲食・物販、宿泊などのサービス機能の立地のほか、生活拠点、産業・ビジネス、医療・教育、研究・開発、防災などの機能立地が期待できるポテンシャルの高いエリアとなります。
- 各機能に対する需要等をふまえながら、リニア三重県駅周辺も魅力的な目的地となるように民間資本の誘致や誘導などを含めて検討を深めていく必要があります。
- リニア三重県駅は、ヒトやモノの流れを大きく変えるようなポテンシャルを備えており、その開業効果を最大限に発揮させるため、リニア三重県駅周辺だけでなく、隣接する地域を含めた広域のまちづくりを検討していく必要があります。
- 無秩序な開発を抑制するため、あらかじめ広域での土地利用コントロールの手法等を検討していく必要があります。

- リニア三重県駅を新たな玄関口として、リニア開業がもたらす効果を最大限に引き出し、その効果を県全体に波及・発展させるために、リニアとともに本県が歩む将来の「めざす三重の姿」を明らかにするとともに、それを実現するための取組の方向性を「三重リニア基本戦略(仮称)」として取りまとめました。
- 「三重リニア基本戦略(仮称)」を活用し、リニアとともに歩む本県の将来のイメージを県民の皆さまと共有できるよう、みえリニアポータルサイトでの発信やみえリニア応援クラブ会員との連携など、これまでの取組の充実を図りながら、新たな発信の場を広げていきます。
- 今後JR東海が実施する環境影響評価の手続きにより、県内の概略のルート・駅位置が公表された際には、第2段階として、「三重県リニア基本戦略(仮称)」が示す「めざす三重の姿」の実現に向け、「みえリニア戦略プラン(仮称)」の策定に着手し、具体的な施策や事業への展開を図ります。



リニア中央新幹線 (©JR東海)

入会金・年会費 無料

年齢制限なし

「みえリニア応援クラブ会員」募集中

リニア中央新幹線の県内駅位置の早期確定
および、1日も早い全線開業と一緒に応援して
いただける方を募集しています。

